

日時：2018年6月30日（土）15:00～18:00

場所：東洋大学 白山キャンパス 2号館 3階 第1会議室

出席：渡邊芳之理事長、藤田主一副理事長、荒川 歩、尾見康博、加藤 司、北村英哉、
松田英子、山崎晴美、中村 真

欠席：小塩真司（審議事項を理事長に委任）

日本パーソナリティ心理学会第128回常任理事会

報告事項

I 理事長挨拶

II 各種委員会報告

1 機関誌編集委員会（加藤委員長）

(1) 第27巻第1号の編集状況について

掲載論文について、以下の通り報告があった。

種別	題目	筆頭者
原著	特性的な情動焦点型コーピングが日常の気分に与える影響	内田 香奈子
原著	体験の回避はコーピングと区別される—情動制御方略としての独自性と心理的ストレス反応への影響の検討	松本 明生
S	課外活動集団内での同化・差異化尺度作成の試み：集団社会化理論に着目して	河本 愛子
原著	防衛的悲観主義者は本当に自尊心が低いのか？——潜在的自尊心に着目した検討——	清水 陽香
原著	大学生の独り言的ツイートは独り言なのか：発話傾向との関連から	澤山 郁夫
S	縦断研究による中学生の多次元共感性の検討	大山 智子
S	アルバイト場面における他者志向的動機づけが作業量の促進に及ぼす影響——実験による検討——	徳岡 大
原著	統合失調症患者の原因帰属および抑うつ・不安が被害妄想的観念の3側面におよぼす影響	村上 元
S	一過性の運動実践が敏感な個人の気分を与える影響についての試験的検証	雨宮 怜
S	日本語版嗅覚イメージ鮮明度質問紙作成の試み	山本 晃輔
S	恋人を欲しいと思わない大学生の1年後の恋愛状況の変化	高坂 康雅
原著	情報プライバシーとインターネット上の未知の他者への自己情報公開との関連—対面の予期を操作した検討—	太幡 直也
S	中学生の友人関係における自己価値の随伴性が充実感を予測するプロセスの検討	海沼 亮
原著	恋愛関係における自分磨きに対するアタッチメントとケアギングの相互影響性	大久保 圭介

(2) 採択論文

第27巻第2号に掲載される論文は、原著2篇、ショート7篇が確定済みであり、数本が追加される見込みである旨の報告があった。

(3) 審査状況

以下の通り、報告があった。

月	採択	審査中	修正中	不採択	取下	投稿数
1	3	19	16	0	1	5
2	5	16	11	3	1	3
3	7	14	13	1	2	7
4	1	16	5	1	4	4
5	5	17	3	3	0	9
6/17	0	13	11	3	0	5

2 経常的研究交流委員会（荒川委員長）

(1) 第27回大会の企画について

以下の通り、2つの企画に関する報告があった。

企画1

タイトル：加害者臨床とパーソナリティ研究の対話：ダークトライアドを巡って
 話題提供：中村正（立命館大学）非会員・喜入暁（東京大学）・市川玲子（株式会社アイデアラボ）
 指定討論：渡邊芳之（帯広畜産大学） 司会：平野真理（東京家政大学）
 企画趣旨：近年、社会的に問題となる行動と結びついたパーソナリティ特性としてダークトライアドが注目を集めている。しかし、問題行動と関わる個人差といっても、加害者臨床の立場から見たそれと、パーソナリティ研究の立場から見たそれは、観点にも関心にもズレがあるだろう。本企画では、加害者臨床の専門家を招いて、ダークトライアドに関わる問題について、加害者臨床、パーソナリティ心理学の双方の立場から論じ、最終的に、加害者臨床とつながるパーソナリティ心理学の可能性について考えたい。

企画2

タイトル：「ビッグデータ分析、初めの一步」
 講演者：鳥海不二夫先生（東京大学大学院工学系研究科）
 司会：荒川歩（武蔵野美術大学）
 企画：日本パーソナリティ心理学会・経常的研究交流委員会
 企画趣旨 近年、ビッグデータが注目を浴びているが、心理学では、ネット調査も含む自記式の質問紙を R 等の統計分析ソフトウェアで分析することが多く、いわゆるビッグデータについては関心がありつつも、算入しがたいと思っている研究者が多いと思われる。そこで、本企画では、計算社会科学と人工知能技術の社会応用を研究の柱とされている東京大学大学院工学系研究科の鳥海不二夫先生にお願いして、ご自身のご研究をご紹介いただくことでマイニングの可能性を考えた上で、ソーシャルメディアデータを中心にマイニングの初歩の部分について具体的な手続きなどについてご指導いただく、時間の制約もあって完全な講習という形は難しいが、参加者にも少しでも実際に操作していただき、ビッグデータの分析を身近なものにする企画にしたい。

(2) MPP について

大会前日に行われる MPP の企画案について、以下の通り報告があった。

開催日時: 2018年8月25日(土)16時00分～19時00分

開催場所: 立命館大学大阪いばらきキャンパス B棟4階研究会室1

実施企画: 前半『「他分野・産官との連携」についての話題提供』

田中 健吾 先生 (大阪経済大学)・山本 晃輔 先生 (大阪産業大学)

後半『「他分野・産官との連携」についての議論・討論

実行委員: 原田 新 (岡山大学)・大久保智生 (香川大学)・藤本 学 (立命館大学)

後藤崇志 (滋賀県立大学)

3 広報委員会 (松田委員長)

(1) 活動報告

ウェブサイトの更新、メールニュースの配信などの活動内容が報告された。

(2) YPP2018 について

別紙企画書に基づき、準備状況の説明があった。また、6月16日現在、16名が参加予定である旨の報告があった。

(3) その他

現在、メールニュース配信不着問題が発生しており、解決策を検討中であるとの報告があった。また、北村常任理事より、学会 WEB サイトに大会発表論文集のリンクを張ってはどうかとの提案があり、これに対して、現在準備中の WEB サイトリニューアルに併せて対応してもらおうとの方針が示された (松田委員長)。

4 国際交流委員会 (小塩委員長欠席により中村事務局長が代理報告)

第27回大会の Barbara Krahe 先生招待講演における講演謝金 (50,000 円)、宿泊費補助 (50,000 円) の支出について報告があった。これに関して、他の経費の出所についても小塩委員長に確認していただき、次回常任理事会で報告をお願いしたい旨を申し合わせた。

5 学会活性化委員会 (山崎委員長)

(1) 学会ロゴマークについて

別紙に基づき、前回常任理事会で決定した学会ロゴマークについて、デザイナーによるチェックを経たりメイク案が示され、承認された。また、ロゴマークの投稿者著作権は本学会が所有するため、今後、必要に応じてカラーの変更、デザインの修正が可能であることについて、作成者の大久保圭介氏、デザイナーの斉藤和章氏 (株式会社アスデザイン IT 事業部) との間で確認が行われた旨の報告があった。なお、ロゴマークの決定を周知するために機関誌の広告ページに記載する原稿については、陶山学会活性化委員が作成したのち、常任理事会 ML 審議に諮った。

(2) 第27回大会優秀発表賞について

同賞の審査方法について、一次審査通過者のポスターを大会前に提出いただき、審査員が事前に審査する方法に変更となった点を再確認したうえで、審査スケジュールおよび審査

手順について補足説明があった。

(4) 次期委員会への引継ぎ資料について

第 27 回大会終了時に現在の委員が任期終了となるため、委員会の活動内容を次期委員会へ引継ぐための資料を作成する旨の報告があった。

6 学会賞選考委員会（北村委員長）

学会賞選考委員会による一次審査の結果が示され、審議の結果、学会賞、奨励賞ともに学会賞選考委員会から推薦された論文各 1 点を受賞論文とすることを常任理事会として承認した。学会賞受賞論文は、「攻撃的な人が不味い飲み物を与えるとき」（著者：相馬敏彦・西村大志・高垣小夏）、奨励賞受賞論文は、「シングルマザーのワーク・ファミリー・コンフリクトが中高生の家族イメージ、結婚観に及ぼす影響」（著者：小平英志・末盛慶・鈴木佳代）である。学会賞および奨励賞の決定をメールニュースで会員に周知するとともに、学会賞選考委員長から受賞者に連絡し、会員総会での授与式への出欠を尋ねることを申し合わせた。

III 日本心理学諸学会連合

1 日心連社員総会について（渡邊理事長）

6 月 14 日に行われた会員総会において、心理学検定の規程を現状に合わせて改正する案が審議され、承認された旨の報告があった。また、理事・監事の改選が行われ新役員が選出され、理事互選により理事長は横田正夫先生となったとの報告があった。

2 心理学検定について（藤田副理事長）

今年度の受検者は約 5,500 名であること、心理学科のある大学の学生にもっと受験してほしい旨の要望が示された。

IV 第 27 回大会準備状況について

今回は特になし。今後、理事長と事務局長が連携して主催校に連絡をとり、対応をはかることを申し合わせた。

V 第 28 回大会主催校について

渡邊理事長より、第 28 回大会主催校が武蔵野美術大学に決まったとの報告があった。

審議事項

I 財務関連事項（2017 年度決算、2018 年度予算など）

尾見財務担当常任理事より、本学会の財務状況について説明があり、概ね健全な運営が行われていることが報告された。引き続き、2017 年度決算案について審議が行われ、費目の位置づけなどの調整が必要であることを申し合わせた。2018 年度予算案については、承認された。

II 次期役員選挙の結果について（藤田選挙管理委員長、中村選挙管理委員）

理事・監事選挙、理事長・常任理事選挙の結果について、以下の通り報告が行われ、審議の結果、承認された。

(1) 正会員による理事・監事選挙の結果

有権者数 797、投票者数 163、投票率 20.45%（前回選挙は、15.18%）

理事選挙（5名連記）の総有効票数 773、白票 42

監事選挙の総有効票数 157、白票 6

理事選挙の結果

氏名	WEB得票数	
渡邊 芳之	53	当選
小塩 真司	47	当選
加藤 司	33	当選
佐藤 達哉	32	当選
北村 英哉	29	当選
尾見 康博	28	当選
松田 英子	27	当選
中村 真	22	当選
浮谷 秀一	21	当選
岡田 努	20	当選
荒川 歩	19	当選
山崎 晴美	17	当選
松田 浩平	17	当選
向田 久美子	16	当選
藤田 主一	16	当選
安藤 寿康	13	当選
有光 興記	13	当選
森 津太子	12	当選
田中 麻未	12	当選
桂 瑠以	12	当選
木下 まゆみ	12	次点1
外山 美樹	10	次点2
菅原 ますみ	9	次点3
以下散票	283	

選挙管理委員会による抽選の結果、当選

選挙管理委員会による抽選の結果、当選

選挙管理委員会による抽選の結果、当選

監事選挙の結果

氏名	WEB得票数	
友田 貴子	14	当選
岡田 努	11	当選
坂元 章	10	次点1、繰上当選
堀毛 一也	7	次点2
安藤 寿康	7	次点3
陶山 智	7	次点4
以下散票	101	

辞退 理事当選
 選挙管理委員会による抽選の結果、次点順位を決定
 選挙管理委員会による抽選の結果、次点順位を決定
 選挙管理委員会による抽選の結果、次点順位を決定

(2) 理事の互選による理事長・常任理事選挙の結果

有権者数 20、投票者数 19

常任理事選挙（7名連記）の総有効票数 128、白票 5

理事長選挙の総有効票数 19

常任理事選挙の結果

氏名	WEB得票数	
松田 英子	16	当選
北村 英哉	14	当選
中村 真	13	当選
小塩 真司	13	当選
向田 久美子	13	当選
森 津太子	13	当選
尾見 康博	10	当選
加藤 司	9	次点1
松田 浩平	5	次点2
以下散票	22	

理事長選挙の結果

氏名	WEB得票数	
渡邊 芳之	16	当選
加藤 司	2	
藤田 主一	1	
以下散票	0	

Ⅲ 学会ウェブページの外注について（チェロトーン社との契約など）

松田広報委員長より、チェロトーン社に外注することを決定した WEB サイトについて、2018 年 8 月 1 日に運用が開始できるように準備を進めているとの報告があった。併せて、チェロトーン社より提示された WEB サイトリニューアルおよび WEB サイト運用に関する見積書について審議を行い、承認された。今後、チェロトーン社に契約書案を作成してもらい、理事長・事務局長・財務担当で確認し、正式契約を交わすことを申し合わせた。

また、「旧性格心理学会」の併記は取りやめること、別紙トップページのデザイン案のうち、常任理事会としては第 2 案に賛成である旨を申し合わせた。

Ⅳ 追試・追証研究および Registered Report について（加藤機関誌編集委員長）

加藤委員長より、機関誌「パーソナリティ研究」に追試・追証研究および Registered Report（「事前登録研究」と称する）を掲載することを可とする新たな提案があり、当面のあいだは、ショートレポートに限ること、この件を説明するエディトリアルを掲載したい旨の説明があった。Registered Report は、「目的」「方法」の記載内容で審査し、審査に合格すれば、その後、計画通りに実験や調査が行われていれば、「結果」の如何にかかわらず、「結果」を含めて掲載されるという仕組みである。

渡邊理事長より、これは最近の心理学ワールドの大きな課題・流れをふまえての試みであり、海外では新たな潮流となっていること、本学会の機関誌もこの方針を導入し、追試を掲載しないというこれまでの流れからの転換をはかりたいこと、できれば第 28 巻から開始したいという意向が示された。

審議の結果、当面のあいだ、ショートレポートに限り、追試・追証研究および Registered Report の掲載を可とする旨の基本方針で検討を始めること、必要に応じて編集規程を改訂することが大筋で承認された。加えて、これを 27 回大会の総会で周知することを申し合わせた。

Ⅴ 第 127 回常任理事会議事録の件

審議の結果、同議事録案が承認された。

Ⅵ 会員の入退会に関する件

事務局より、新入会希望者 33 名（うち 32 名は ML 審議にて承認済み）、退会希望 27 名の一覧が示され、審議の結果、承認された。併せて、宛先不明者について報告があった。

以上の承認を受けて、2018 年 6 月 22 日現在、会員総数は 925 名である。内訳は、一般会員 686 名、院生会員 224 名、学生会員 3 名、名誉会員 9 名、賛助会員 3 名。

※今回審議対象の新規入会希望者 1 名は含まれない。

Ⅶ 第 27 回理事会、第 27 回大会会員総会の報告資料について

報告事項の作成要領、提出期限を以下の通り申し合わせた。

- ・各種委員会の報告資料は、A4 判 1 ページとする。

- ・報告資料を事務局長に電子ファイルで提出する。
- ・提出期限を2018年8月9日（厳守）とする。

併せて、2018年8月25日に行われる理事会終了後に、第27回大会時に表彰を行う「学会賞」「大会発表賞」の賞状およびロゴマーク採用者への表彰状に理事長印を押印するので、担当常任理事またはその代理の方が、賞状（完成版）を用意することを申し合わせた。

VIII その他

次回の常任理事会を7月22日（日）15:00から東洋大学で行うことを申し合わせた。